

科目名	教育学概論		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の性格

本科目は、教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」(4単位中の2単位)に対応するものである。(教職必修科目)

2 科目の概要

本科目の概要は、(1)教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について学ぶ、(2)教育に関する制度、社会との関わり、学校経営の基本について学ぶことにある。

3 学修評価

本科目の学修目標は、以下の2点である。教育の歴史的な展開と教育に関する様々な知識を理解し習得する。教育について多角的視点から根源的に考えることのできるようになる。

内容

- 第1回： 教育の概念をめぐって
- 第2回： 社会生活と教育
- 第3回： 古代・中世の教育と近代学校の成立
- 第4回： 「子ども」を中心にとらえる教育観の成立
- 第5回： 20世紀の代表的教育思想
- 第6回： 日本の学校制度と教育体系の整備
- 第7回： 教育の社会的基盤
- 第8回： 現代日本の教育課題
- 第9回： 子どもと社会環境・特別支援教育
- 第10回： 「学ぶ力・考える力」 能動的な学習者を育てる
- 第11回： 教育評価の意義と方法
- 第12回： 学校経営と学校評価
- 第13回： 学級経営の基本
- 第14回： 教育行財政の基本 生涯学習時代の「教育と学習」
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。その比率は、小テスト50%：筆記試験50%で、合計60%以上の得点の場合を単位認定する。及第点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】桑原敏明・佐藤三郎 編著『学校教育の基盤 - 教育の本質と社会の中の学校』協同出版

その他は、初回授業時に指示する。

科目名	教育学概論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間生活学部教職科目 必修科目。

教職課程の基礎科目として各教科の基本となる教育の基本理念、教育の歴史や思想について学習する。また、今日の教育の動き、教育改革の進行など、現代社会の動きと日本、諸外国の状況など、教育現象を広くとらえ、人間形成のあり方にも触れる。

教育についての視野を広げ、自身の教育観の形成に役立てることを学修目標とする。

内容

1	現代教育の諸課題
2	教育とは - 教育へのさまざまな問い
3	教育と社会変容 - 教育の機能・役割
4	子どもの生活環境の変化
5	教育改革の動向
6	公教育の成り立ち
7	課題発表
8	教育制度と学校体系 - 諸外国と日本
9	学力について - 新学力観とPISA
10	子ども観の誕生 - ルソーと近代教育
11	近代学校の誕生 - 西洋と日本
12	学校観の移り変わり - デューイと新教育
13	現代にみる学校化社会と新たな学習への模索
14	課題発表
15	まとめ

評価

課題レポート60点、授業・グループワーク参加30点、発表10点の合計100点とし、60点以上が合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『やさしい教育原理』（有斐閣）

『学ぶこと・教えること』（金子出版）などが参考。

テキストは授業時に紹介する。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、学校教育の諸活動に活用しうる心理学的知識への理解を深めるための科目である。教職に関する科目のうち、教育の基礎理論に関する科目である。

科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

評価

期末試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、増田 吉史、草野 一紀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、各教科(国語・算数など)、領域(道徳・特別活動など)等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教職科目」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します(順不同)。

1. 教育課程とは何か。
2. 近代日本における教育課程のあゆみ
3. 現代日本における教育課程のあゆみ
4. 教育課程開発の新しい動向
5. 教育課程の思想と構造
6. 社会における教育課程
7. 教育課程をどう編成するか 教育課程編成における構成要件
8. 教育課程をどう編成するか 編成論の変遷
9. 教育課程をどう編成するか 編成の基本原則
10. 教育課程をどう編成するか 展望
11. 今日的課題への挑戦 いのち、生きることへの教育
12. 今日的課題への挑戦 市民性教育
13. 今日的課題への挑戦 環境教育
14. 今日的課題への挑戦 メディア・リテラシー教育
15. まとめ

評価

学習票(20点)と課題研究(80点)を総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】 配付資料を使います。

【推薦書】 斎藤喜博 『授業の展開(新装判)』 国土社

横須賀薫 『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編 『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編 『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/中学校教諭一種免許状(社会)/高等学校教諭一種免許状(公民)/高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状(福祉)/高等学校教諭一種免許状(家庭)/中学校教諭一種免許状(家庭)/高等学校教諭一種免許状(保健)/中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。

特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

内容

- 1 教育の目的と方法 (ガイダンス) (星野)
- 2 教育の方法と技術 (井口)
 - ・教育の方法・技術とは何か
 - ・フィンランド方式
- 3 カリキュラムの構成と類型 (星野)
 - ・カリキュラムの構成要素
 - ・カリキュラムの類型
- 4 教育方法の歴史的変遷(1) (星野)・教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷(2) (星野)・経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷(3) (星野)
 - ・近代の教育カリキュラムと教育方法
 - ・わが国における教育方法の歴史的変遷
- 7 いろいろな教授法(1) (星野・安達)
 - ・学習集団と教授法
 - ・教材開発と教具の利用
- 8 いろいろな教授法(2) (星野・安達)
 - ・新しい教授法
- 9 学習指導要領の変遷と特徴(星野)
- 10 教材づくり・教材発掘 (井口)
 - ・教材づくり・教材発掘の原点
 - ・教材研究
- 11 授業と教授メディア (井口・安達)
 - ・教授メディアの変遷
 - ・授業はどのように変わるか
- 12 コンピュータの利用 (井口・安達)
 - ・コンピュータと現代社会
 - ・コンピュータの教育利用の領域と教師の役割
- 13 教育評価の役割と方法 (井口)
 - ・教育評価という仕事
 - ・教育評価をめぐる基本的な観点
- 14 学力と教育評価の課題
 - ・現代日本における教育評価
 - ・教育評価の課題
- 15 まとめ(井口)

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 授業ごとの課題提出(30%)
- 2 最終試験の達成度(70%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

内容

1	情報の意義や役割の理解（1）
2	情報の意義や役割の理解（2）
3	情報教育の全体像と目標
4	普通教科「情報」のねらいと教科（1）
5	普通教科「情報」のねらいと教科（2）
6	専門教科「情報」のねらいと教科（1）
7	専門教科「情報」のねらいと教科（2）
8	問題解決と演習の設計（1）
9	問題解決と演習の設計（2）
10	演習課題選択の観点
11	目標分析と年間指導計画の作成（1）
12	目標分析と年間指導計画の作成（2）
13	講義と実習の効果的な授業方法
14	グループワークの組織方法
15	まとめ

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（60%）を総合して、60%以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

内容

1	科目の性格と目標（1）
2	科目の性格と目標（2）
3	科目の性格と目標（3）
4	学習指導案と教材作成（1）
5	学習指導案と教材作成（2）
6	学習指導案と教材作成（3）
7	学習指導案と教材作成（4）
8	模擬授業（1）
9	模擬授業（2）
10	模擬授業（3）
11	授業評価と学習評価の考え方（1）
12	授業評価と学習評価の考え方（2）
13	授業評価と学習評価の考え方（3）
14	これからの教科「情報」
15	まとめ

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（60%）を総合して、60%以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	社会・公民科教育法		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「各教科の指導法」（中学8単位中の2単位・高校4単位中の2単位）に対応する。

2 科目の概要

本科目では、高等学校公民科の教育課程について理解するとともに、高等学校公民科の授業展開に必要な基本的知識・技能を身につけることを目的とする。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 高等学校公民科の教育課程構成について理解する。 公民科を構成する3科目についての基本的知識を修得する。 公民科の指導案を作成し授業を実施する能力を身につける。

内容

- 1 公民科の教科構造
- 2 公民科の教育目標
- 3 「現代社会」 - 科目の性格と目標
- 4 「現代社会」 - 内容構成
- 5 「倫理」 - 科目の性格と目標
- 6 「倫理」 - 内容構成
- 7 「政治・経済」 - 科目の性格と目標
- 8 「政治・経済」 - 内容構成
- 9 指導案作成の基本
- 10 指導案作成の演習
- 11 模擬授業の実施
- 12 指導案の再構成
- 13 模擬授業の再実施
- 14 授業分析
- 15 まとめ

評価

レポート・指導案作成課題・筆記試験により判定する。その比率は30点：30点：40点とする。合計60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』をテキストとして使用する。検定済み教科用図書については、学校所蔵のものを使用する。

【参考図書】 参考図書については、本学所蔵のものを授業中に適宜紹介する。

科目名	社会科教育法（公民科教育序論）		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格科目

本科目は、教員免許法に定める「各教科の指導法」（中学8単位中の2単位・高校4単位中の2単位）に対応する。

2 科目の概要

本科目では、我が国の初等中等教育における、社会科教育全体の教育課程の構成を特に中学校に焦点を当てて学ぶとともに、中学校社会科の授業展開に必要な基本的技能を学ぶことを目的とする。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 初等中等教育における社会科の目標について理解する。 中学校社会科の学習内容とその意義について理解を深める。 中学校社会科の授業展開に必要な基本的技能を身につける。

内容

- 戦後の教育改革と社会科の設置
- 社会科教育課程の変遷
- 高等学校教育課程の改編と公民科の設置
- 「公民的資質」の概念
- 地理・歴史教育と公民教育の関連
- 道徳教育との関連
- 教科外教育活動との関連
- 様々な授業の形態
- 資料活用の方法
- 評価法の基本
- 優れた実践事例の研究
- 指導案の作成
- 模擬授業
- 授業分析の技術と方法
- まとめ

評価

レポート・指導案の作成課題・筆記試験により判定する。その比率は30点：30点：40点とする。合計60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』をテキストとして使用する。検定済み教科用図書については、学校所蔵のものを使用する。

【参考図書】 参考図書については、授業中に適宜指示する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は英語科教職課程カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、英語教科教育法II～IVと同様にこの科目の単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

中学校・高校の教育課程全体における英語科カリキュラムの位置づけを背景として、英語科カリキュラム の実際について概論的に学びます。さらに、英語科教育の理論と方法について基礎的な事項を学びます。

英語科カリキュラムの位置づけとその実際について理解します。

内容

毎回授業のはじめに、前回授業の復習テストを行います。

1	英語教育の目標
2	英語科カリキュラムの特色 (学校教育内の位置づけ等を背景にして)
3	中学校学習指導要領の概要とその実践方法
4	高校学習指導要領の概要とその実践方法
5	言語の習得に関する理論
6	各種の英語教授法理論と方法
7	語彙・文法の学習と指導
8	リスニングの学習と指導
9	スピーキングの学習と指導
10	リーディングの学習と指導
11	ライティングの学習と指導
12	音声教材・LL教室等の教育機器を利用した学習と指導
13	教案の作成1
14	教案の作成2
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点であることと、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上であることを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

- (1) 定期試験： 70%
(2) 平常点： 30% (復習テスト (毎週)、課題提出 (毎週))

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』, 米山朝二著, 松柏社, 2400円+税.

『英語 基礎からできる総復習』, 創育, 880円+税.

【推薦書】文部科学省中学校学習指導要領 (外国語)

文部科学省高等学校学習指導要領（外国語）

『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円＋税。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

英語科教職カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、3年次の英語教科教育法III, IVにつながります。教育実習に出るには、英語教科教育法I~IVすべての単位を取得する必要があります。

前期で学んだ点をふまえて、中学校・高校で実際に授業を担当した場合を常に念頭に置き、わかりやすい説明を行うための基礎となる基礎的かつ実践的な文法を適宜演習形式を取り入れて学びます。

中学校・高校で英語を教えるために必要な基礎的文法事項を身につけます。

内容

毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います。

1	文における基本的イントネーション
2	文字及び基本的な符号
3	文の構成と基本文型
4	文の種類 (疑問文、命令文、感嘆文、there構文)
5	名詞・名詞句・代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	現在完了
14	関係詞
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点であることと、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上であることを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

- (1) 定期試験： 70%
(2) 平常点： 30% (復習テスト (毎週)、課題提出 (毎週))

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』, 米山朝二著, 松柏社, 2400円+税

『英語 基礎からできる総復習』, 創育, 880円+税.

【推薦書】『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円 + 税.

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	小谷 スミ子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

授業の到達目標及びテーマ

- ・家庭科教育の理念・意義および歴史の変遷を学ぶことで家庭科教育への理解を深め、教職への意欲を高める。
- ・中等家庭科教育の目標、内容、指導方法、評価を体系的に理解できる。

授業の概要

家庭科教育法 では、家庭科教育の理念と意義、歴史の変遷と新しい教育課程における中等家庭科教育の課題を明らかにする。また教科の目標、内容、指導方法、評価について理解し、系統的なカリキュラムの編成に必要な能力を身につける。

内容

授業計画

- 第1回 家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）
- 第2回 家庭科教育の理念と意義（家庭科教育の独自性、家庭科で育てる生活者）
- 第3回 家庭科教育の歴史の変遷1（女子教育から共に学ぶ教科へ、戦後の教育改革と家庭科の誕生）
- 第4回 家庭科教育の歴史の変遷2（社会の変化と共学家庭科の実現過程）
- 第5回 現代の生活課題と家庭科教育（生徒の生活環境と生活実態の把握、生活実践力の育成）
- 第6回 諸外国の家庭科教育1（教育制度、カリキュラム論、学習内容）
- 第7回 諸外国の家庭科教育2（学習法、他教科との関連、教育をめぐる社会背景など）
- 第8回 家庭科学習の指導要領1（カリキュラム構築の視点、学習指導要領にみる家庭科）
- 第9回 家庭科学習の指導要領2（小・中・高等学校の学習要領と家庭科教科書の内容比較）
- 第10回 家庭科教育のカリキュラム1（カリキュラム編成の基本原則、家庭科の学習目標）
- 第11回 家庭科教育のカリキュラム2（家庭科の学習内容と学習方法）
- 第12回 家庭科の授業設計1（授業設計とは、授業観の変遷、生徒の発達と学習意欲）
- 第13回 家庭科の授業設計2（年間指導計画、学習指導案、題材の指導計画、教材化の視点）
- 第14回 家庭科学習の評価1（評価の基本原則、評価の種類と特徴）
- 第15回 家庭科学習の評価2（授業実践の評価、生徒の学びを多様に評価する方法）、まとめ

評価

学生に対する評価

毎回提出のレポートまたは課題と、定期試験を併せ、前者50：後者50の比率で算定し、合計60ポイント以上の者を単位認定する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

中間美砂子編著「家庭科教育法 - 中・高等学校の授業づくり」建帛社

文部科学省「中学校学習要領解説 技術・家庭編」教育図書

文部科学省「高等学校学習要領解説（家庭科編）については出版された段階で購入すること

参考書・参考資料等

適宜指示する

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	小谷 スミ子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

授業の到達目標及びテーマ

- ・家庭科教育の指導目標、指導内容を理解する。
- ・1単位時間の授業を構想し、学習指導案やワークシート等を作成できる。
- ・家庭科授業を実施するために重視すべき事項を説明できる。

授業の概要

家庭科教育法 では、指導目標、指導内容等の整理とともに、教材研究を通して、指導内容、指導方法の理解を深める。1単位時間の具体的な指導計画の立案を通じて、実践的な指導に必要な力量の理解と習得を図る。なお、中学校、高等学校における授業の構想について教育現場の講師の講話により理解を図る。

内容

授業計画

- 第1回 家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）
- 第2回 家庭科のカリキュラムづくり（家庭科カリキュラム構成の視点、学習目標）
- 第3回 家庭科の学習内容（家族・保育・福祉領域、衣食住、消費・資源・環境）
- 第4回 家庭科の学習法1（学習指導要領にみる家庭科の学習方法）
- 第5回 家庭科の学習法2（実践的・体験的学習、問題解決的学習、アクション志向学習など）
- 第6回 家庭科学習の指導要領の作成と評価1（学習指導案の形式、題材設定の理由：教材観・生徒観・指導観）
- 第7回 家庭科学習の指導要領の作成と評価2（学習目標、指導計画、本時の学習内容、授業評価の観点）
- 第8回 学習指導案の作成と評価3（本時の学習指導案、ワークシートの作成、板書計画）
- 第9回 家庭科授業事例から学ぶ1（環境教育、健康教育、福祉教育、地域文化教育など）
- 第10回 家庭科授業事例から学ぶ2（自立して生きる、共に生きる）
- 第11回 学習指導の実際：現場教師による講義
- 第12回 学習指導案の作成演習1
- 第13回 学習指導案の作成演習2
- 第14回 学習指導案の作成演習3
- 第15回 学習指導案の発表とまとめ、まとめ

評価

学生に対する評価

毎回提出のレポートまたは課題と、定期試験を併せ、前者50：後者50の比率で算定し、合計60ポイント以上の者を単位認定する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

中間美砂子編著「家庭科教育法 - 中・高等学校の授業づくり」建帛社

文部科学省「中学校学習要領解説 技術・家庭編」教育図書

文部科学省「高等学校学習要領解説（家庭科編）については出版された段階で購入すること

参考書・参考資料等

適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	齋藤 千景、高橋 京子、佐見 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

小学校、中学校、高等学校の学習指導要領における保健科教育全体の教育課程を学ぶ。保健科教育の目標や内容を押さえ、教育実践に展開するための理論と実際を学ぶ。

学習指導要領に基づいて、学校教育における保健教育の役割を理解する。また、保健の授業を組み立て、保健学習を行うために必要となる基礎的考え方を習得する。

内容

1	保健教育の意義と役割
2	保健教育の役割と教育課程の歴史
3	子どもの健康実態と保健教育
4	学習指導要領（ 1 ） 小学校
5	学習指導要領（ 2 ） 中学校
6	学習指導要領（ 3 ） 高等学校
7	学習指導要領（ 4 ） 特別支援教育
8	保健の指導計画
9	保健の単元計画（ 1 ） 小学校中学年
10	保健の単元計画（ 2 ） 小学校高学年
11	保健の単元計画（ 3 ） 中学校
12	保健の単元計画（ 4 ） 高等学校
13	保健教育の実践事例（ 1 ） 中学校
14	保健教育の実践事例（ 2 ） 高等学校
15	まとめ

評価

授業内に出題する課題への解答を20点、筆記試験の得点を80点に換算して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト:文部科学省 2008 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

参考書：適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	齋藤 千景、高橋 京子、佐見 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

授業展開にそって単元指導計画と学習指導案を作成し、模擬授業の体験を通じて、実践的な指導力形成を目指す。

保健科教育法 で学習した知識と理論を踏まえて、また、保健科教育法 で学習した知識や技能を活用しつつ、教材研究や教材作成を行って、模擬授業を行う。

内容

1	授業準備とは
2	保健教育の年間計画について
3	指導案作成（1） 作成手順と方法
4	指導案作成（2） 単元の目標理解と学習内容
5	指導案作成（3） 教材研究
6	指導案作成（4） 学習指導案の作成
7	教授技術（1）板書、発問
8	教授技術（2）机間指導、評価活動
9	模擬授業と授業分析（1） 小学校中学年
10	模擬授業と授業分析（2） 小学校高学年
11	模擬授業と授業分析（3） 中学校
12	模擬授業と授業分析（4） 中学校
13	模擬授業と授業分析（5） 高等学校
14	模擬授業と授業分析（6） 高等学校
15	まとめ

評価

授業内に出題する課題への解答を20点、筆記試験の得点を80点に換算して評価する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 2008 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

参考書：適宜指示する

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	道徳の時間の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	学習指導案の検討と模擬授業の準備
13	13	模擬授業の実践(1)学生の選んだ主題
14	14	模擬授業の実践(2)学生の選んだ主題
15	15	模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	道徳教育		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は「教職に関する科目」の一つとして、学校における道徳教育を支える理論と実際について学ぶものです。養護教諭一種免許状の取得を希望する者においては必修です。

講義では、道徳的価値や規範意識の低下など、現代社会の今日的状況を射程に入れながら、学校における道徳教育の位置づけと実際について学びます。

学修目標は次の三つです。 道徳教育をめぐる今日的状況を知る 学校における道徳教育の役割と実際について理解する 道徳教育の本質や理念を理解し、道徳的な判断および行動について理解を深める。

内容

1. 道徳、道徳教育について
2. 道徳教育と心の教育
3. 学習指導要領にみる道徳教育の位置づけ、役割
4. 他国にみる道徳教育
5. 「自己の生き方」について考えるために
6. 道徳教育のあゆみ、「道徳の時間」の特設
7. 道徳教育における今日的な取り組み
8. 道徳教育における今日的な取り組み
9. 道徳的心情の形成と資料について
10. 道徳的判断力の形成をねらいとする指導の実際 モラル・ジレンマ
11. 発達に応じた指導について考える 道徳性の発達理論
12. 発達に応じた指導について考える 道徳性の発達理論
13. 課題発表
14. 課題発表
15. まとめ

評価

試験60%、課題提出20%、課題発表20%とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業のなかで提示する。

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校及び養護教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校・高等学校及び養護教諭の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）学生の選んだ主題	
14	14. 模擬授業の実践（2）学生の選んだ主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道德教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道德・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	道徳教育・特別活動論		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、栄養教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程に関する科目」に対応するものである。

科目の概要

道徳教育・特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された道徳教育・特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。道徳教育・特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育・特別活動の意義や課題について考察し、その本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践する特別活動の指導のあり方について考察する。

内容

1	1. 学習指導要領における道徳教育・特別活動の位置づけ
2	2. 道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育の必要性
3	3. 学校における道徳教育の基本構造、道徳教育の目標と内容 学校の社会的任務
4	4. 学校教育における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画
5	5. 道徳の時間の指導 道徳学習指導案の作成
6	6. 学校教育の今日的課題と特別活動 社会動向と学校の教育的課題
7	7. 特別活動の教育的課題 特別活動の性格、個性の育成、社会性の育成、問題解決力の伸張
8	8. 学級活動の意義と指導の実際 意義と性格、内容・方法・評価、展開事例
9	9. 学級活動の展開事例と今日的課題 学級活動の指導案
10	10. 学級活動の指導案
11	11. 児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事
12	12. 学級活動の進め方 司会グループと計画委員会
13	13. 模擬授業の実践（1）学生の選んだ主題
14	14. 模擬授業の実践（2）学生の選んだ主題
15	15. 模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道德教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道德編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道德・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	被服学		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人は他の動物と異なり衣をまとう動物である。その意味で被服学を学問として学ぶということは、人間としてのありようをも考えることに繋がる。被服学では、被服の起源、被服の役割、被服の素材、被服のデザイン・構成、被服の着想、被服の取り扱い、被服の消費と環境、高齢者・障害者の被服などについて認識を深め、より良い衣生活が営めるよう、総合的な視点と思考力を養う。授業形態は、講義を中心とするがビデオ、DVD、標本などを活用して現実の生活を想起させ、興味・関心を深めていく。

被服学の基礎的な知識と理論が理解できたか。

被服学を学ぶ方法論が身についたか。

教職の現場において生徒にわかりやすく指導することのできる力がついたか。

内容

1	ガイダンス (科目の学び方とその視点)
2	被服の起源と役割
3	被服の種類
4	被服の素材
5	被服の取り扱い
6	人体形態の把握と既製服サイズシステム
7	アパレル産業 1
8	アパレル産業 2
9	被服のデザイン・構成・色彩
10	被服の着装
11	帽子や履き物について
12	高齢者の被服
13	障害者の被服
14	被服の消費と環境
15	総括

評価

平常点・課題 40% 試験 60% 2 / 3 以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

科目名	被服製作実習		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

家庭科教育において生活の諸相である基礎・基本を学ぶことは、成長・発達する子どもたちに不可欠な学習となる。本科目では被服のもつ機能性や個性を生かす色・柄・デザインについて理解を深めるとともに、基本的な知識を身につけ、手縫い・ミシン縫い、用具の取り扱い方法、作品の製作方法や手順などについての技術・技能を養う。これらを通して人間としての生活のありように迫る。各自の技術・技能の習得については、練習を繰り返し行い、しっかりと身につけることを目標とする。授業形態は標本を用い、師範しながら進めていく。

被服製作実習の授業を通して、実習に必要な用具やそれらの取り扱い方法、基礎的な知識・技術、作品の製作方法、実習授業の計画手順などが身についたか。

教職の現場において、生徒にわかりやすく指導することのできる力がついたか。

内容

1	ガイダンス(科目の学び方とその視点)
2	被服製作実習に必要な用具とその使用方法
3	布地の種類と用途
4	手縫い基礎1 [玉結び 玉どめ 並み縫い ぐし縫い]
5	手縫い基礎2 [本返し縫い 半返し縫い しつけのかけ方]
6	手縫い基礎3 [普通まつり 流しまつり 縦まつり]
7	手縫い基礎4 [ボタンつけ スナップつけ]
8	ミシン縫い基礎1 [ミシンの使用方法 直線縫い 二度縫い 返し縫い 曲線を縫う]
9	ミシン縫い基礎2 [ジグザグミシン 端ミシン 三つ折り縫い]
10	ミシン縫い基礎3 [折り伏せ縫い ロックミシン]
11	応用作品の製作1
12	応用作品の製作2
13	応用作品の製作3
14	応用作品の製作4
15	応用作品の展示と評価および感想

評価

平常点50% 各時間の課題および応用作品と作品製作レポートの提出50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

科目名	栄養学概論		
担当教員名	濱口 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、家庭科教諭免許状取得のための必修科目である。 良い食事をつくるには正しい食事の概念を学ぶ必要があり、特に栄養の知識がその中核となる。栄養学で扱う内容は非常に広範囲にわたるが、栄養素の生理的機能に重点を置き、食物として摂取した栄養素が体内でどのような変化を受け利用されるか、また日常の食事からエネルギーや栄養素をどのくらい摂取するのが適正であるかなどについて講述する。 栄養学概論の授業を通して基礎的な知識を習得し、教職の現場において生徒にわかりやすく指導することのできる力を養う。

内容

- 1 回：栄養の基本概念（良い食事・栄養の重要性・生活習慣病の予防・生存のための食物の役割）
- 2 回：日本人の食事摂取基準（2010年度版）の概略
- 3 回：炭水化物（炭水化物の定義、炭水化物の種類と主な食品源）
- 4 回：糖質の機能と栄養（糖質の消化吸収と体内における分布、糖質の代謝とエネルギー産生、糖質の過剰と欠乏）
- 5 回：食物繊維（食物繊維の種類と主な食品源、食物繊維の機能）
- 6 回：脂質（脂質の定義と分類、主な脂肪酸の種類と体内における分布、必須脂肪酸と脂肪酸の摂取比率）
- 7 回：脂質の機能と栄養（脂質の消化吸収と輸送、脂質の代謝とエネルギー産生、脂質の過剰と欠乏、主な食品源）
- 8 回：たんぱく質（たんぱく質の定義とアミノ酸の種類、必須アミノ酸、食品中のたんぱく質の栄養価）
- 9 回：たんぱく質の機能と栄養（たんぱく質の消化吸収と分布、たんぱく質の過剰と欠乏、主な食品源）
- 10 回：ビタミンの定義とビタミン様物質、水溶性ビタミン（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 11 回：脂溶性ビタミン（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 12 回：無機質の定義、マクロミネラル（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 13 回：ミクロミネラル（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 14 回：保健機能食品制度と栄養成分表示制度
- 15 回：健康の保持増進と栄養（健康づくりのための食生活指針・動物性及び植物性食品・献立作成のための基礎食品・食事バランスガイド）

評価

ペーパーテストを実施する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

林寛・濱口恵子著 『新版栄養学総論』 三共出版

科目名	食品学		
担当教員名	栗崎 純一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、中学校教諭一種免許状（家庭）および高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得するにあたって、「教科に関する科目」に指定する科目のうち、食物学区分のなかの必修科目の一つとなっている。

科目の概要

食品を構成する水、タンパク質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミン類について基本的な知識を学ぶ。ついで、身近な植物性および動物性食品素材に特徴的な成分と、それらのもつ特性について学ぶ。これらの知識から、人類が自然界のものを、いかに巧妙に食品として利用し、成長と健康の維持・増進に役立ててきたかを理解する。

学修目標

1. 食品成分とそれらの特性に関する基本的知識を習得する。
2. 主要な食材の特徴、加工特性および利用法を理解する。
3. 日々の食事や食に関連する社会問題にも関心をもち、成長と健康の維持・増進のため、食品を有意義に利用する姿勢を培う。

内容

1	人間と食品
2	食品・食品成分の種類と分類
3	食品の水
4	食品のアミノ酸・タンパク質
5	食品の脂質
6	食品の炭水化物
7	食品中の無機質・ビタミン
8	食品の加工・保存（概論）
9	農産物の科学と利用（1）穀類、いも類、豆類
10	農産物の科学と利用（2）野菜類、果実類、その他
11	畜産物の科学と利用（1）乳類、卵類
12	畜産物の科学と利用（2）食肉類
13	水産物の科学と利用
14	調味料・香辛料、嗜好飲料等の科学
15	まとめ

評価

学修目標に沿った筆記試験3回の成績100点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】久保田紀久枝著『食品学（第2版 補訂）』東京化学同人

【教科書】新しい食生活を考える会編著『食品解説つき新ビジュアル食品成分表 新訂版』大修館書店

科目名	住居学（製図を含む）		
担当教員名	藤井 敏信		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：講義科目であるが設計の基本も学ぶ

科目の概要：

住まいが、第一に、生活の根拠地であること、第二に、地域文化や自然環境と密接な関係があること、再三に、土地とつながる基礎的な社会的資本であること、第四に、歴史的、生活史的な展開と関連していること、第五に、社会の変化と関連していること、などを学ぶ。これらをもとに現代における住まいのあり方を考究する。合わせて、住まい、住環境の具体的な提案を行う。

講義では毎回、資料を配布し、パワーポイント、DVDなど視覚映像教材を用いてその解説を行う。また後半ではスケッチなどの手法により住宅設計も行う。

学修目標：住居や住環境について幅広い知識を学び、今後の住まいについても提案する。

内容

授業の内容は次の通り

- 第1回：自然環境と住居
- 第2回：生活の根拠地としての住居
- 第3回：世界の中の住居
- 第4回：都市住宅の展開
- 第5回：住宅の歴史（日本）
- 第6回：住宅の歴史（欧米）
- 第7回：住宅政策（日本）
- 第8回：住宅政策（アジア）
- 第9回：住宅政策（欧米）
- 第10回：住宅計画（基礎）
- 第11回：住宅計画（応用）
- 第12回：住宅計画（発展）
- 第13回：住宅、および住環境の提案（含む製図）
- 第14回：住宅、および住環境の設計（含む製図）
- 第15回：住宅、および住環境の製作（含む製図）

評価

成績の評価について

積極提起な受講態度を歓迎する。

成績は出席を50%、3回行うレポート、提案課題を50%の割合で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料等を用意するので、特にテキストは特定しないが、参考書等は授業の際に紹介する。

科目名	日本史概説		
担当教員名	清水 亮		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、おもに社会科関連教職免許取得希望者を対象として、古代～近代初頭を対象とした日本史の通史を学ぶものです。初等・中等教育における歴史教育の内容に留意しつつ、今日の研究水準を踏まえて、日本史の通史を講義していきます。

科目の概要

イントロダクション（本講義の概要：講義1）、大王から天皇へ（講義2・3）、古代日本の支配体制と対外関係（講義4・5）、武士の成立と荘園公領制（講義6・7）、鎌倉幕府の成立と展開（講義8）、室町時代の政治体制と社会（講義9）、戦国社会と天下統一（講義10）、江戸時代の政治と経済（講義11・12）、日本近代国家と国際関係（講義13・14）、まとめ（講義15）という順序で、日本の古代から近代を概観していくことになります。

学修目標

講義の内容を踏まえた上で、自分なりに各時代の特徴と連続面・断絶面を整理し、説明できるようになることが本科目の目標です。そのために、本講義では、随時、資料レジュメを配布し、各資料・史料が講義内容とどのように結びつくかを丁寧に説明していきます。また、各授業後にリアクションペーパーをお配りし、皆さんの感想・要望や理解度を把握していきたいと思っています。

内容

1	イントロダクション（本講義の概要）
2	大王の時代～倭国と東アジア～
3	「日本」国号と「天皇」号の成立
4	律令国家の支配体制
5	律令国家と東アジア
6	武士の成立
7	荘園公領制の成立と武士
8	鎌倉幕府の成立と展開
9	室町時代の政治体制と社会
10	戦国社会と天下統一
11	江戸幕府の体制と対外関係
12	江戸時代の社会と経済
13	日本近代国家の成立と近代国際法
14	日清・日露戦争とその影響
15	まとめ

評価

各授業後に配布するリアクションペーパー（30点）、レポート70点（古代：15点、中世：15点、近世・近代：30点、全体にかかわる設問：10点）で評価をします。レポートは、三回提出していただく予定です（第1回：古代、第2回：中世、第3回近世・近代および全体にかかわる設問）。

また、授業の三分の二以上出席することで評価を受けることができます。合格点に満たなかった場合には再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：

村岡薫・戸川点・樋口州男・野口華世・武井弘一・藤木正史編著『小径選書 再検証 史料が語る新事実 書き換えられる日本史』（小径社、2011年）

『小学館創立85年記念企画 全集日本の歴史』全16巻＋別巻1

科目名	世界史概説		
担当教員名	鈴木 道也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (社会)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は、中学校社会科教員免許取得のための必修科目であり、「教科に関する科目」の科目区分「日本史及び外国史」に位置づけられる科目である。教科としての社会科を構成する学問領域は幅広く多様であるが、免許法施行規則上の科目区分においては、「地理学」「法律学/政治学」「社会学/経済学」「哲学/倫理学/宗教学」に位置づけられる科目が、当該授業科目と関連する科目として挙げられる。

科目の概要：本科目では、主として「前近代世界」を、「ヨーロッパ」を主たる事例として概観した後、近代移行期、いわゆる「近世社会」の性格について検討し、最終的に「近代国家システム」の歴史的特質とその課題について解説する。具体的には、

- 1) 裁判や租税など、近代国家を支える様々なシステムの形成が歴史における必然ではなかったことについて理解を深める。
- 2) ヨーロッパあるいはアジア世界における、権力秩序の編成原理に関わる豊富な事例を、比較史の視点から紹介することで、現代とは異なる、しかし活力を持った様々な前近代社会についての具体的なイメージを得る。

学修目標： 現代社会が直面する様々な課題について、歴史的に考察する能力を身につける。

内容

第1回：イントロダクション

第2回：[思想]：宗教と社会 : 教会とは何か ヨーロッパ・アジア・イスラーム

第3回：[思想]宗教と社会 : 正統と異端

第4回：[法]紛争と裁き : 自力救済と和解

第5回：[法]紛争と裁き : 近代的訴訟システムの形成

第6回：[財政]富と税金 : 前近代社会における賦課

第7回：[財政]富と税金 : 租税制度の確立

第8回：[国家]アイデンティティと国家 : 「歴史」の誕生

第9回：[国家]アイデンティティと国家 : ナショナリズムの時代

第10回：[文化]文化とその担い手 : 職人から芸術家へ

第11回：[文化]文化とその担い手 : パトロン=システムと国家的庇護

第12回：[経済]流通と市場 : 近代以前のグローバリゼーション

第13回：[経済]流通と市場 : 貨幣・商品・関税

第14回：前近代世界から近代的世界へ

第15回：まとめ

評価

試験の点数および授業ごとに提出を求めるコメント用紙の記述内容を総合的に評価し、60%以上の評価を得たものを合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『中世世界とは何か』『儀礼と象徴の中世』（ともに岩波書店）が主要参考文献である。その他の参考文献等については、授業中に適宜指示する。

科目名	地理学概説		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は生活情報学科の2・3年の学生を対象とした教職課程科目の一つに位置付けられた前期に開講される2単位の必修科目である。教職課程の各科目、特に社会科教育法 ・ との関連性を踏まえて学修を進めることが必要である。

科目の概要

中学校や高等学校の学習指導要領を踏まえ、中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学の基礎的・基本的な事項を系統地理的考察と地誌的考察をとおして把握する。講義の1～5では地理学や学習指導要領における地理学習の内容を把握し、6～10では地理的事象を系統地理的に考察し、10～14では地誌的に考察を行う。

学修目標

- ・ 中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学の基礎的・基本的な事項や内容を把握する。
- ・ 中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学習野内容の理解を深める。
- ・ 地理学の各分野の内容を踏まえた指導方法や教材開発などを考察し、授業の実践的な指導力や授業力を育成する。

内容

1	「地理学」（地誌を含む）ガイダンス
2	地理学の学問体系とその構成
3	学習指導要領（中学校社会科・高等学校地理歴史科）に示された教科の構造と地理学習
4	中学校社会科における地理的分野の学習内容と方法等
5	高等学校地理歴史科における地理学習の内容と方法等
6	世界の自然環境（1）世界の大地形
7	世界の自然環境（2）世界の気候と気候区分
8	世界の資源と産業（1）世界の農牧業
9	世界の資源と産業（2）世界の鉱工業
10	世界の都市と村落
11	現代世界の地誌（1）アジアの世界
12	現代世界の地誌（2）ヨーロッパの世界
13	現代世界の地誌（3）南北アメリカの世界
14	現代世界の地誌（4）アフリカとオセアニアの世界
15	まとめ・現代世界の課題とその解決を目指して

評価

小テストを含めた試験（60％）・発表及びレポート（30％）・作業プリント提出物（10％）で評価を行い、60点以

上を合格とする。合格点に満たなかつた場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

- ・地図帳（高等学校などで使用したものがあればそれでも可）
- ・授業の際に配布されるプリント

推薦書

- ・データブック2012（二宮書店）680円
- ・中学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省）175円
- ・高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（文部科学省）410円

科目名	地誌学概説		
担当教員名	西山 弘泰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、おもに社会科関連教職免許状取得希望者を対象とし、地理的分野に位置づけられる科目である。

科目の概要

本科目では、はじめに地理の学習において重要な地図の読解、地域調査の手法について解説する。次いで、身近な地域（埼玉県、東京都）、日本、世界へとエリアを広げていき、それぞれの地域の気候、地形、文化、政治、社会、経済について概観していく。講義ではより実感が得られるよう写真や地図を多用する。

学修目標

それぞれの地域には特徴がある、つまり「所変われば品変わる」ということ、それが諸地域の気候、地形、文化、政治、社会、経済などに根ざしているということを理解してもらいたい。

内容

1	ガイダンス
2	地図の読解と地域調査の技法
3	身近な地域 埼玉県，東京都
4	関東地方
5	東北・北海道地方
6	中部地方
7	近畿地方
8	中国・四国地方
9	九州・沖縄地方
10	東アジア・東南アジア
11	西アジア・アフリカ
12	ヨーロッパ
13	アングロアメリカ
14	ラテンアメリカ
15	オセアニア

評価

各授業で提出するリアクションペーパー（50点）と、試験（50点）で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自中学または高校で使用した地図帳を持参すること。その他、特にテキストは指定せず、資料の配布を適宜行う。

科目名	哲学概説		
担当教員名	田子山 和歌子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1) 科目の性格 哲学史 (哲学の歴史) を自分で構築するユニークな授業です。
- 2) 科目の概要 西洋哲学史について書かれた複数の高校倫理の教科書を、2, 3人のスモールグループで読みくらべ、それぞれの教科書でどのような理解が目指されているかを学びます。次に、哲学者自身の手による哲学的著作 (テキスト) を実際に読み、教科書群で語られた内容と比較します。こうした作業から、どのような哲学史理解が得られるかをグループで話し合います。
- 3) 学修目標 哲学史の学習は、しばしば受動的なものとしてとらえがちです。しかし、哲学史の教科書を複数比較すると、同一事項に関しても、様々な記述がなされていることに気づかされます。こうした比較を通して、哲学史を客観的に見る練習をしたいと思います。また、教科書の比較をたたき台にすることで、一見難しいように思われる哲学者の書いた著作にも、興味を持って接することができます。できるだけ、哲学を身近に感じるようにできることが、この授業の目標です。

内容	
1	ガイダンス
2	実際に哲学の教科書を読んでみる。デカルト 1
3	デカルト 2
4	スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ 1
5	スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ 2
6	ギリシャ哲学 1
7	ギリシャ哲学 2
8	ギリシャ哲学 3
9	キリスト教、ユダヤ教 1
10	キリスト教、ユダヤ教 2
11	キリスト教、ユダヤ教 3
12	中世哲学 トマス・アクイナス、アウグスティヌス 1
13	中世哲学 トマス・アクイナス、アウグスティヌス 2
14	中世哲学 トマス・アクイナス、アウグスティヌス 3
15	現代へ カント、ヘーゲル

評価
 平常点、最終期末試験から成績を評価する。平常点 (授業への参加度) を 50 点、期末試験を 50 点、計 100 点として、評価を行う。授業の形式上、出席重視の授業なので、毎回出席してほしい。欠席が著しく目立つ場合は最終試験を受ける資格はないものと判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)
 毎回プリントを配布します。

科目名	倫理学概説		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は、教員免許法施行規則に定める、中学1種「社会」・高校1種「公民」の「教科に関する科目」中の2単位分（選択科目）に対応する。教職課程のみの特設科目である。

2 科目の概要

本科目では、高等学校公民科「倫理」・「現代社会」の指導に必要な、思想史の通史を学ぶとともに、高等学校公民科「倫理」の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 高等学校公民科「倫理」の構成内容を理解する。 「倫理」の授業展開のための指導案を作成できるようになる。 「倫理」の実際の授業を行う技能を身につけることができる。

内容

- 1 高等学校公民科「倫理」における「先哲学習」の位置づけについて
- 2 古代ギリシアの思想 初期キリスト教の成立と展開
- 3 初期イスラム教の成立と展開
- 4 初期仏教の成立と展開
- 5 奈良時代における仏教受容 平安仏教と鎌倉仏教
- 6 諸子百家の思想 朱子学と陽明学
- 7 日本における朱子学の受容と封建教学の形成
- 8 イギリス経験論と大陸合理論
- 9 ドイツ観念論哲学
- 10 功利主義と実存主義
- 11 近代日本における西洋思想の受容
- 12 「倫理」指導案の作成
- 13 先哲学習における資料活用の方法
- 14 模擬授業の実施 授業分析
- 15 まとめ

評価

指導案作成課題50：筆記試験50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』、「倫理」・「現代社会」の検定済み教科書をテキストとして使用する。

【参考図書】 その他参考図書については、授業中に適宜指示する。

科目名	基礎栄養学		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修講義科目となります。より健康な心身を獲得するために必要な、栄養学の基礎を学んでいきます。

この講義ではまず、三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） 微量栄養素（ビタミン、ミネラル） その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解を導いていきます。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても説明を加えます。

学修目標は、食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解することができる 栄養素の摂取と消費のバランスが成長期の心身の健康・栄養状態に与える影響について、健康教育を実施し得る基盤をつくる の3点とします。

内容

1	栄養と健康
2	栄養素の消化・吸収・代謝
3	糖質とは何か
4	糖質の機能と効率的な摂取法
5	タンパク質とは何か
6	タンパク質の機能と効率的な摂取法
7	脂質とは何か
8	脂質の機能と効率的な摂取法
9	ビタミンの必要性
10	ミネラルの必要性
11	水分・食物繊維の必要性
12	栄養素の摂取量と消費量のバランス
13	日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド
14	幼児期・学童期・思春期の栄養学
15	まとめ

評価

学則にしたがって三分の二以上出席していることで評価を受けることができます。レポート30点、ミニテスト20点、ペーパー テスト50点とし、トータル60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田 勉 編 [わかりやすい栄養学] 三共出版

【推薦書】五明紀春・渡邊早苗・山田哲雄 編〔基礎栄養学〕 朝倉書店

【推薦書】池本真二・稲山貴代 編著〔食事と健康の科学〕 建帛社

科目名	解剖生理学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

解剖生理学では人体のしくみについて構造と機能という観点から理解することを目的とする。解剖学では人体の構造、生理学では機能を学ぶというおおまかな分類がある。しかし、両者は切り離して理解することはできない。本講義ではヒトが生きるための体の構造と機能そしてその関連に重点をおいて学ぶ。

内容

1. 人体の構造（組織、器官など）
2. 骨格系の構造と機能
3. 筋系の構造と機能
4. 筋系の構造と機能
5. 循環系の構造と機能
6. 循環系の構造と機能
7. 消化系の構造と機能
8. 消化系の構造と機能
9. 呼吸器系の構造と機能
10. 呼吸器系の構造と機能
11. 神経系の構造と機能
12. 神経系の構造と機能
13. 環境と人体の構造と機能
14. 環境と人体の構造と機能
15. まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで評価を受けることができる。合格点に満たなかった場合は再レポートを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	森 三樹雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

医学や医療に関する急速な進歩に伴い、医療を必要とする職種において、広範囲な医療知識と高度な専門技術が求められている。ここでは、解剖生理学という、人体の解剖学とその生理学的機能を学ぶことにより、医学の基本知識をみにつけることができる。この学問を基礎にして、生活習慣病を中心とした、糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症、痛風などの種々の病気についても解説する。これらの疾患を理解できるようになる。

内容

1	疾患による細胞、組織の変化 疾患の診断
2	臨床検査 疾患の治療
3	糖代謝とその異常
4	脂質代謝・蛋白質代謝とその異常
5	栄養障害 摂食障害
6	消化管および肝、胆道, 膵臓疾患
7	循環障害と循環器疾患
8	脳血管障害と神経疾患
9	腎・尿路疾患
10	内分泌疾患
11	骨代謝と筋・骨格疾患・呼吸器疾患
12	血液疾患
13	免疫・アレルギー疾患・小児疾患
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

課題の口頭発表(30%)、レポート(20%)、試験(50%)で、三分の二以上(10回以上)出席することで評価を受けることができます。合格点に満たなかった場合は、原則として再試験は行いません。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書	伊藤節子 編	『臨床病態学』	化学同人	2009
推薦書	森 三樹雄編	『やさしい臨床検査』	南山堂	2008

科目名	学校保健		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。学修目標として 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。 学校保健における基礎的事項について理解する。 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容

1	学校保健の意義と関連法規について
2	学校における疾病管理の実際について
3	慢性疾患のある児童生徒の疾病管理について
4	学校において予防すべき感染症について
5	学校における感染症の対応について
6	学校環境衛生の目的について
7	学校環境衛生の基準について
8	学校環境衛生の実施について
9	心身の健康課題への対応について
10	心身の健康課題への対応について
11	保健室経営と保健室経営計画について
12	学校における保健組織活動の必要性について
13	学校安全計画と安全管理について
14	学校給食について
15	まとめ

評価

筆記試験(小テストを含む)9割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：養護教諭のための学校保健<第10版> 出井美智子他 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	食生活論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「学校保健」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基礎に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭として求められる能力の向上を目指すものである。学修目標は これまで学んだ知識と技術を確認する。具体的な諸活動を立案し実践することができる。

内容

1	学校で予防すべき感染症について
2	学校における感染症の対応について
3	アレルギー疾患の理解と学校における対応について
4	保健学習について
5	保健指導と教科保健の特質について
6	保健指導の進め方について
7	保健指導の実際と評価について
8	学校における保健組織活動について
9	保健室経営と保健室経営計画について
10	保健室経営計画の実際と評価について
11	学校環境衛生の目的と法的根拠について
12	学校環境衛生基準と測定方法について 1
13	学校環境衛生基準と測定方法について 2
14	学校安全と危機管理について
15	まとめ

評価

筆記試験 (小テストを含む) 9 割、通常の授業態度 1 割により評価し、60 点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書：新養護概説<第 5 版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	食品学		
担当教員名	増沢 光信		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：この科目は、教職課程の必須科目で、養護教諭免許を取得する上で必要な科目である。食品学総論の基幹部分である食品成分表並びにそこに取り上げられている各食品成分について学修し、食品とは何かを理解する。

科目の概要：食品と栄養、食品の機能及び分類など食品の基礎的なことを先ず説明する。そして食品の栄養素、特に基本となる水分、タンパク質、脂質、炭水化物、ミネラル、ビタミンについて要点を整理して説明し、併せて食品の消化吸収及び日本食品標準成分表の読み方などについて説明する。さらに、食品の新しい機能について解説し、保健機能食品制度についても説明する。

学修目標：基本的には教科書に沿って説明するが、教科書を離れて関連事項を補足的に説明する。その時には別途資料「授業の要点」を配布する。授業は黒板に要点を書きながら説明する。教科書、資料及びノートをよく整理して理解する。

内容

1	食品とは何か、食品と栄養、食品の機能について
2	食の歴史の変遷、食物連鎖、食生活と健康、食嗜好の形成、食糧と環境について
3	食品の安全安心の確保とその具体的取り組みについて
4	食品の第三次機能と機能性食品
5	特定保健用食品及び保健機能食品制度について
6	食品成分、食品の分類及び日本食品標準成分表について
7	食品中の水の状態と役割について
8	食品成分の基本的性質 1 タンパク質について
9	食品成分の基本的性質 2 脂質について
10	食品成分の基本的性質 3 炭水化物について
11	食品成分の基本的性質 4 灰分と無機質について
12	食品成分の基本的性質 5 ビタミンについて
13	食品の消化吸収とエネルギーについて
14	食品の表示と食品に関する法律について
15	まとめ

評価

授業終了後ペーパーテスト (70%) 及び中間点でのレポート (30%) により 60 点以上を合格点として評価する。合格点に満たない場合は再試験をおこなう。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書：青柳靖夫、筒井知己著「標準食品学総論」第2版 医歯薬出版株式会社

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	阿子島 茂美、榊原 洋一、岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

特別支援教育の中の知的障害の心理・生理・病理について基礎的な知識を学びます。講義では知的障害の発生要因・定義・分類・評価法・診断・病理等について事例を取り上げながら理解を深めます。学修目標は 知的障害の基礎を理解することができること 知的障害児の教育的ニーズと支援方法を理解することができることです。

内容

- 第 1 回：知的障害の医学的要因
- 第 2 回：知的障害の生理と病理
- 第 3 回：知的障害の精神と行動
- 第 4 回：知的障害の知的機能
- 第 5 回：知的障害の早期発見と療育
- 第 6 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の定義・診断・分類
- 第 7 回：知的障害（肢体不自由・病弱）に関連する諸障害の特性
- 第 8 回：知的障害（肢体不自由・病弱）のアセスメント
- 第 9 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の心理的特性
- 第 1 0 回：知的障害と認知特性
- 第 1 1 回：知的障害と記憶・学習
- 第 1 2 回：知的障害とソーシャルスキル
- 第 1 3 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の療育
- 第 1 4 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の学校における支援体制、関係諸機関との連携
- 第 1 5 回：知的障害（肢体不自由・病弱）における地域との連携

評価

試験による評価70% 中間レポートによる評価 20% 平常の参加度の評価 10%です。 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

下司昌一編集「現場で役立つ特別支援教育ハンドブック」日本文化社

小池敏英・北島善夫著「知的障害の心理学 発達支援からの理解」北大路書

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	岩井 雄一、飯野 順子、榊原 洋一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

肢体不自由児はその起因疾患や病態、心理的な発達特性に関してきわめて多様で個人差がある。個に応じた指導を展開するには、肢体不自由児の障害や発達実態について医学、心理学等多角的な視点から把握する必要がある。

本授業では、肢体不自由教育に携わる際に必要となる基礎知識を習得することを目的として、肢体不自由児の起因疾患と病態、生育と発達特性の関連性、学習レディネスの形成過程について医学的、心理的及び社会的側面から講述し、教育実践上の問題を具体的に検討する。

学修目標は、 主要な肢体不自由の起因疾患と病態について理解すること、 肢体不自由児の認知特性、性格・行動特性について理解すること、 社会的視点から関係領域と連携した発達支援を理解することの3点である。

内容

1	運動機能の発達と運動障害の発生
2	肢体不自由の起因疾患と病態の特徴
3	脳性まひ等の脳障害にみられる随伴障害
4	肢体不自由者の生命・健康問題と医学的ケア
5	脳性まひの生活態様と二次的障害の防止
6	障害と環境（ICFを中心に）
7	肢体不自由児の心理的特性の理解1（事例を通して）
8	肢体不自由児の心理的特性の理解2（バリアフリーとユニバーサルデザイン）
9	肢体不自由児の認知発達の理解（認知発達テストを通して）
10	肢体不自由児の認知発達の指導の実際
11	肢体不自由児のパーソナリティの理解1（心理テストを通して）
12	肢体不自由児のパーソナリティの理解2（心理テストを通して）
13	肢体不自由者の障害受容のプロセス（途中障害と先天性障害）
14	肢体不自由児の保護者の心理理解とその対応
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30点)、最終週の試験(50点)に、通常を受講時の態度(20点)を加味して総合的に評価する。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で紹介する。毎回授業時に関係資料を配付する。

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	坂田 紀行、榊原 洋一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1．ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は教員免許（特別支援学校）資格取得のために必要な科目で、その中で病弱教育の基礎的理論を学ぶことになります。

科目の概要

授業は講義形式により、心理・生理・病理について理解を深め、自立活動への指導の応用を学びます。また、具体的な内容を盛り込み、視聴覚による提示を取り入れる。

学修目標

- ・病弱者の認知、言語、社会性、知能などの一般的な特性について説明できる。
- ・知的障害、肢体不自由のある病弱者の心理的特性について説明できる。
- ・心理的特性を病弱教育の中の自立的活動指導に取り入れる視点を習得する
- ・特別支援教育全体の中での病弱教育の現状を把握して主な内容について説明できる

内容

2． 内容

- 1回 病弱児の実態の把握1（病弱校の実態、認知、言語の実態）
- 2回 病弱児の実態の把握2（心理的不安、対人関係）
- 3回 病弱教育の目的・目標とその意義
- 4回 病弱教育の歴史的変遷と現状における課題
- 5回 特別支援教育における病弱児教育とその課題（他の種別との関係）
- 6回 病弱教育の教育課程
- 7回 病弱者の心理的面の指導
- 8回 病弱者の生理について：小児の発達
- 9回 病弱者の病理について：実態把握
- 10回 病弱者の病理について：評価、検査
- 11回 病弱者の病理について：薬物療法
- 12回 病弱者の指導上の配慮
- 13回 病弱者の自立活動のとねらい
- 14回 病弱者の自立的活動の展開
- 15回 まとめ

評価

3．評価

学修目標に関するレポート（４０点）学修目標に関するペーパー - テスト（４０点）、授業の参加度（２０点）により、評価を行い、６０点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

4 教科書・推薦書

推薦書

フィリア：特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

特別支援教育基礎論：大南英明、緒方明子、吉田昌義 放送大学教育振興会発行

参考書等 適宜、資料を配布します。また、視聴覚教材を取り入れます。

科目名	知的障害教育課程論		
担当教員名	岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

知的障害特別支援学校の教育課程の構造や知的障害の教科、教科等を合わせた指導、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成について、理解をさせる。

既習の知的障害教育概論の内容を踏まえ、専門的な事項について深めることを目的とする。また、知的障害児の教育課程を編成する上で重要な知的障害児の教科、教科等を合わせた指導について指導する。さらに、高等部における職業教育の在り方や進路指導、これらを支える個別の指導計画や個別の教育支援計画について、実際の特別支援学校の事例等を交えて講義を行う。

知的障害の児童生徒及び教育課程の特徴について理解し、特別支援学校教員としての基本的事項を身に付けること。

内容

- 第 1 回：知的障害教育の対象及び専門性
- 第 2 回：知的障害教育の教育課程の基礎・基本
- 第 3 回：知的障害教育の教育課程 ・ 知的障害教育の各教科と領域、指導の形態
- 第 4 回：知的障害教育の教育課程 ・ 各教科等を合わせた指導 (遊びの指導、生活単元学習等)
- 第 5 回：知的障害教育の教育課程 ・ 各教科等を合わせた指導 (作業学習等)
- 第 6 回：障害特性に応じた教育、自閉症の教育課程
- 第 7 回：アセスメントと個別の指導計画
- 第 8 回：個に応じた指導と教材の開発・活用
- 第 9 回：高等部における職業教育とインターンシップ
- 第 1 0 回：高等特別支援学校と教育課程の類型化
- 第 1 1 回：個別の教育支援計画の作成と関係機関との連携
- 第 1 2 回：交流及び共同学習の実際
- 第 1 3 回：特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能
- 第 1 4 回：障害種を超えた特別支援学校の現状と課題
- 第 1 5 回：知的障害教育の今後の展望

評価

定期試験 (60%)、小テスト・レポートの提出 (30%) 及び授業に対する意欲・関心・態度等 (10%) とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。特別支援教育基礎論 (放送大学出版) は、参考書として推薦する。

講義は、パワーポイント等を用い、必要な資料はその都度配布する。適宜、DVD等の視聴覚教材を活用する。

科目名	知的障害教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

知的障害児・者（肢体不自由児・者 病弱児・者）の障害特徴と教育の目標、方法、内容について基礎的な知識を学ぶ。
 個々の児童・生徒に合わせた発達支援の在り方の理解を深める。
 知的障害（肢体不自由・病弱）の定義、原因、分類、アセスメント及び行動特徴を心理学側面から学ぶ。
 現場の指導例、ケース検討を通して認知発達の様相と教育のもつ意味の理解をはかる。

内容

- 第1回：知的障害（肢体不自由・病弱）の定義
- 第2回：知的障害（肢体不自由・病弱）の原因と分類
- 第3回：知的障害の特徴（1）認知
- 第4回：知的障害の特徴（2）記憶と学習
- 第5回：知的障害の特徴（3）運動
- 第6回：言語とコミュニケーション
- 第7回：アセスメントの基礎
- 第8回：発達検査、知能検査
- 第9回：行動・生活支援
- 第10回：個別の指導計画の作成と実施
- 第11回：知的障害（肢体不自由・病弱）の学校での支援体制
- 第12回：知的障害児（幼児）のケース検討と教育実践
- 第13回：知的障害児（学齢期）のケース検討と教育実践
- 第14回：障害者自立支援法・発達障害者支援法
- 第15回：自立と就労・地域との連携

評価

試験による評価（70％）中間レポートによる評価（20％）平常の参加度の評価（10％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

講義は、パワーポイント等を用い、必要な資料はその都度配布する。適宜、DVD等の視聴覚教材を活用する。参考となる資料は、適宜紹介する。

科目名	肢体不自由教育概論		
担当教員名	飯野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

肢体不自由教育の現状と課題についての基礎的理解を深め、それを基に肢体不自由教育の今日的課題に対する解決の方策を主体的に追求する姿勢を育成することを目的とする。

本授業では、肢体不自由教育における主要な教育課題である教育内容・指導法、移行期支援、医療的ケアへの対応等を講述し、特に医療、福祉等の領域との連携のあり方について討議する。

学修の目標は、1)特別支援教育における肢体不自由教育の特徴を歴史的展開の中で把握すること、2)肢体不自由教育の現状と課題について理解すること、3)今日的課題を解決する方策を追求して今後の方向性を修得することの3点である。

内容

1	肢体不自由教育の実際とその理解
2	肢体不自由教育の歴史的変遷と現状の課題
3	肢体不自由児の就学指導と進路指導
4	肢体不自由教育の教育課程の基礎・基本 1 (類型について)
5	肢体不自由教育の教育課程の基礎・基本 (自立活動について)
6	肢体不自由児の学習特性
7	肢体不自由児の指導法 1
8	肢体不自由児の指導法 2
9	肢体不自由児の指導法 3
10	医療的ケアの必要な児童生徒の理解
11	医療的ケアへの対応の現状と課題
12	コミュニケーション支援の方法
13	摂食指導の基礎・基本
14	キャリア教育の視点に立つ個別の教育支援計画の作成
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート (30点) 最終週の試験 (50点) に通常を受講時の態度 (20点) を加味して、総合的に評価する。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で推薦する。毎回授業時に資料を配布する。

科目名	病弱教育概論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、特別支援教育における病弱者（身体虚弱者を含む）に関する教育領域の科目である。ここでは病弱教育に関する基本的な事項について学び、この後、病弱教育課程論を学修する。

科目の概要

初めに病弱教育の歴史を概観する。その後、病弱教育の対象とされる子どもや病弱教育の「場」等について現状を把握し、教育上の配慮事項、病弱教育の意義、病弱教育に携わる教師の役割等について学ぶ。

学修目標

- ・病弱教育の対象とされる子どもたちや、特別支援学校、特別支援学級等に関する現状について理解 する。
- ・病気の子どもの実態と病弱教育における配慮事項について理解する。
- ・病弱教育の意義について理解する。

内容

1	病弱教育を学ぶにあたって
2	病弱教育の歴史（１）
3	病弱教育の歴史（２）
4	病弱教育の現状
5	病弱教育の「場」
6	病気の子ども（１）
7	病気の子ども（２）
8	病弱教育における教育課程編成
9	病弱教育における配慮事項
10	病院等、関係機関との連携
11	本県における病弱教育（１）
12	本県における病弱教育（２）
13	病弱教育の意義
14	病弱教育に携わる教師
15	まとめ

評価

筆記試験（６０％）とレポート（４０％）により評価を行い、６０点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。参考図書については教室で紹介します。

科目名	教職入門		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」（2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

2 科目の概要

本科目の概要は、主に以下の3点である。 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。

教員の職務内容（サービス・研修など）について学ぶ。 教員採用のあり方などを知る。

3 学修目標

本科目の学修目標は、以下の3点である。 教職の制度的側面についての基礎知識を習得する。 教職にの意義と教員の役割について理解を深める。 教職への意欲を高める。

内容

- 第1回： 学校をめぐる、現代の諸問題
- 第2回： 現代社会の教育課題と学校（1） 義務教育課程における課題
- 第3回： 現代社会の教育課題と学校（2） 後期中等教育における課題
- 第4回： 専門職としての教師・その法的位置づけ
- 第5回： 教師像の歴史的变化
- 第6回： 教員生活の実際
- 第7回： 教師の職業的社会的化と研修の意義
- 第8回： 研修制度の実際
- 第9回： 学習指導要領の法的意義
- 第10回： 学校教育と法体系
- 第11回： 教員のサービス
- 第12回： 学校・家庭・地域社会の連携と教員の役割
- 第13回： 教員生活を振り返って・授業担当者による教員生活体験談
- 第14回： 学校教員の採用システムとその対応
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。小テスト50：期末試験50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 テキストは、「図説・表解 教育法規」 坂田仰ほか著 教育開発研究所、を用いる予定である。変更の場合もあるので、初回の授業で指示する。

【参考図書】 参考書・参考資料等として、教育法規に関しては「学校小六法」が、採用情報に関しては都道府県教育委員会の広報が役立つ。

科目名	教職入門		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職の意義等に関する科目」（2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

2 科目の概要

本科目の概要は、主に以下の3点である。 教職の意義と、教員の役割についての根本原理を学ぶ。

教員の職務内容（サービス・研修など）について学ぶ。 教員採用のあり方などを知る。

3 学修目標

本科目の学修目標は、以下の3点である。 教職の制度的側面についての基礎知識を習得する。 教職にの意義と教員の役割について理解を深める。 教職への意欲を高める。

内容

- 第1回： 学校をめぐる、現代の諸問題
- 第2回： 現代社会の教育課題と学校（1） 義務教育課程における課題
- 第3回： 現代社会の教育課題と学校（2） 後期中等教育における課題
- 第4回： 専門職としての教師・その法的位置づけ
- 第5回： 教師像の歴史的变化
- 第6回： 教員生活の実際
- 第7回： 教師の職業的社会化と研修の意義
- 第8回： 研修制度の実際
- 第9回： 学習指導要領の法的意義
- 第10回： 学校教育と法体系
- 第11回： 教員のサービス
- 第12回： 学校・家庭・地域社会の連携と教員の役割
- 第13回： 教員生活を振り返って・授業担当者による教員生活体験談
- 第14回： 学校教員の採用システムとその対応
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。小テスト50：期末試験50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 テキストは、「図説・表解 教育法規」 坂田仰ほか著 教育開発研究所、を用いる予定である。変更の場合もあるので、初回の授業で指示する。

【参考図書】 参考書・参考資料等として、教育法規に関しては「学校小六法」が、採用情報に関しては都道府県教育委員会の広報が役立つ。

科目名	学校関係法規		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

法と制度の観点から、学校教育を成り立たせている仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の教育及び学校における諸問題を考察する視点を得ることである。

科目の概要

学校教育を法と制度の観点から見ることは、実際の社会的現実の中で学校教育が果たしている役割に目を向けることになり、学校教育の役割が制度として理解できることである。

基本的な学校関係法規について扱う中で、わが国の学校教育についての理解を深めるとともに、近年の教育改革の動向についても考察する。

学修目標

教育の基礎理論に関する科目として、学校教育に関する基本的な法と制度を理解する。

内容

1	教育の目的及び理念等に関する法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する法規
3	教育行政機関の仕組み等に関する法規
4	学校の種類・設置等に関する法規
5	学校運営等に関する法規
6	学校教育の目的・目標等に関する法規
7	学級編制等に関する法規
8	学習指導要領等に関する法規
9	教育課程の編成等に関する法規
10	教科書（教科用図書）等の教材に関する法規
11	教職員の組織・職務等に関する法規
12	教職員の人事・服务等の特例に関する法規
13	就学・入学等に関する法規
14	保健・安全・給食等に関する法規
15	まとめ

評価

授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）60点、課題レポートなどの提出物40点、などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『必携 小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版

『解説 教育六法』 解説教育六法編集委員会 三省堂

『教育法規便覧』 窪田眞二・小川友次 編 学陽書房

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、阿子島 茂美、飯野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容

1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥/多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】湯浅恭正編『よくわかる特別支援教育』ミネルヴァ書房、石部元雄・柳本雄次編著『特別支援教育 理解と推進のために』福村出版、下司昌一編『現場で役立つ特別支援教育八

ンドブック』日本文化科学社

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容

1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥/多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】湯浅恭正編『よくわかる特別支援教育』ミネルヴァ書房、石部元雄・柳本雄次編著『特別支援教育 理解と推進のために』福村出版、下司昌一編『現場で役立つ特別支援教育八

ンドブック』日本文化科学社

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に生かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。また、現職教員による実際の指導例、グループによる調査、報告、演劇を通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/H D・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に生かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。また、現職教員による実際の指導例、グループによる調査、報告、演劇を通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

第 1 回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第 2 回：LDの理解

第 3 回：AD/HDの理解

第 4 回：高機能自閉症等の理解

第 5 回：アセスメントの基礎

第 6 回：心理検査法 < WISC K-ABC >

第 7 回：学力のアセスメント

第 8 回：読み・書きの指導

第 9 回：算数の指導

第 1 0 回：言語・コミュニケーションの指導

第 1 1 回：個別の指導計画の作成と実施

第 1 2 回：学校における支援体制：通常学級における支援

第 1 3 回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第 1 4 回：社会的自立・就労の問題

第 1 5 回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。